

私は元々海外の暮らしや建築に興味があったので、今回の短期留学はアジアの台湾という国について知る良い機会となりました。そして同時に、様々なことを経験し学ぶことができました。

私は以前イギリスに行ったことがあります。その時は個人的な旅行だったので、現地の建物や食文化、生活などを実際に体感し、積極的に沢山のひととコミュニケーションをとり交流を図りました。その時はその時で非常に満足していましたが、前回の個人旅行と今回の短期留学では大きな違いがありました。

それは、現地の人たちとの親睦の深さが全く違うということ、現地の生活のリアリティも全く違ったということです。初日では、飛鳥先生と共に浴衣の着付けなどをしてもらいました。その際、その場にいた数名の学生が「とても綺麗です！」と言いながら駆け寄ってきてくれて、とても嬉しかったのを今でも鮮明に覚えています。その後はフリーだったため、仲良くなった玄奘大学の学生たちと一緒に Big City という大きなショッピングモールへ遊びに行きました。Big City まで、学生たちが普段通学で利用している車で運転して連れて行ってくれて、オススメのお菓子や食べ物を沢山教わり、購入しました。その後は本屋に行ったり、薬局に立ち寄って台湾で有名なコスメなどを皆で試しながら楽しくショッピングをすることができました。有名なタピオカ店にも連れて行ってくれたり、活動日初日から非常に充実した1日を過ごすことができました。現地の学生とのコミュニケーションは主に日本語でしたが、英語で会話をする機会も意外と多くありました。普段の学校生活の悩みから恋バナ、家族についてなど本当に沢山の話をすることができて、非常に貴重な経験をすることができました。「外人」という言葉だと自分よりもかけ離れているように感じますが、実際はそんなことはなくて、言語は違えどやはり同じ人間なのだとことを改めて実感しました。そして、言葉というものの大切さも改めて実感する機会でもあるのだと感じました。また国際交流をする上で、ある程度その国に対してサーチをしていかないと、知らないうちに失礼な行為をしてしまうことに繋がります。例えば、台湾人は中国人と同等に扱われるのを嫌うということや、生活習慣などについてです。学長先生と食事を一緒にすることもあったので、その時私は台湾についてもっと予習しておけば良かったと後悔をしました。

生活に関して言えば、実際の台湾の学生たちと相違の少ない生活が送れたのではないかと感じました。特に食事に関しては、校内の学生食堂を何度か利用したり、飲食店も学生のお勧めする行きつけのお店を利用したりしたので、台湾の食事習慣について詳しく知れたと思います。

交通事情では日本とはだいぶ違う点が見られました。学生でもタクシーを積極的に利用している人が多いことや、スクーターやバイクの数が尋常ではないほどに多いことです。特にスクーターは歩行者が避けるのが当たり前という風習があり、非常に驚きました。ラッシュ時には、スクーターの列が途絶えず、なかなか信号が渡れないということも日常茶飯事だということで、ここでまた文化についての違いを感じました。

上記のことを踏まえて、今回のプログラムの達成度を表すならば8割以上だと考えました。

残りの数割は、英語がうまく話せなかったり、もっと自分にできることかあったのではないかと反省や心残りです。今後、今回の反省を糧にしていきたいと感じました。

今回のプログラムを通して、私はますます海外についての興味、関心が深まりました。

今後も様々な方面の国に足を運ぶのと同時に、大学のプログラムなどは積極的に調べ、参加もしていきたいと考えました。また今までは、数週間ではなく一ヶ月～の長期留学もいつかしてみたいとぼんやりと考えていましたが、今後は本格的に長期も視野に入れていこうと思います。

まずそのために、第一に英語力をとにかく磨きたいと考えています。今年度のうちに TOEIC を一度は受け、とりあえず私自身の英語力の現状を把握することがまず自身のやるべきことだと考えました。

今回のプログラムでは、満足感と同時に自身の反省点も浮き彫りになったと感じています。

台湾で仲良くなった友達数名とは、今現在も LINE や Instagram などメッセージのやりとりが続いています。

この機会にできたネットワークを大切に、SNS で交流を続けていきたいと感じました。

以上の経験から、私のように海外に行くだけでなく、現地の人と仲良くなったり交流を深めたい人には最適なプログラムなのではないかと感じています。学校経由で行くので、海外に怖い印象を抱いている人や言語の壁からなかなか一歩踏み出せない人にも私はこのプログラムを推奨します。

街もアジア特有の美しさを持ち、優しい友人が多くできた台湾。また絶対に行きます。

今回初めての留学体験で実感が湧かず、漠然とした考えのまま当日を迎えたのだが自分が思っていたものの数倍いい経験を得ることができた。留学の目標達成度としては私はデザインを中心に見て回ろうと考えてたのだが留学先で用意してくれたコースなどがあり、どちらかという自分で回るといふ形にはならなかった。しかし現地の学生と会話をしながら回る台湾はここでしか得られない経験だと思う。日本に帰ってきた今も繋がりがあり、今度また会おうと約束もした。海外に友達ができることは初めてなのでとても嬉しい。このように年の近い友達ができるというのは留学でしか味わえないだろう。またいつか台湾に行きたいと思っている。

留学する前と後と比べて意識の変化はとても大きかった。まず台湾に対する見方が変わった。台湾自体の印象が行く前と比べ180度変化した。行く前は日本と同じような道を辿り発達へ進んでいると思っていた。実際台湾に行ってみて感じたのは台湾は台湾でまた独自の文化を持ち独自の発展をしているということだ。同じ進歩をたどっている国はないと理解をしたつもりだったが、実際に触れたことで打ちのめされたようだった。私が想像していた台湾は台湾の一面であり、全く知らなかった。台湾の文化に触れたことで世界の広さを痛感し、もっと知りたくなった。私たちが抱えている他国のイメージは想像にすぎない。これは台湾だけに言えることではなく、他の国にも言えることだ。台湾の私の中のイメージでは日本よりも整備や設備が行き届いていないあまりよくはないイメージだった。確かに台湾の街の通りの中では整備されていないところもあった。しかしそれは日本にも言えるし、きれいに舗装されている道路もあった。それに私たちが今回訪れた台北では若いアーティスト達が各々の展示ができるリノベーションされた倉庫を使った展示が行われていた。果たして現在日本でこのような常時若者が活躍できる場所があったらどうか。ここでのポイントは常時である。イベントを起こし出店する若者はいるが全面的に押し出して店舗にしているところは少ないのではないだろうか。またその空間はリノベーションによってきれいになった倉庫に作られており、古風な建物と若手の作品が一緒にあるということにとっても魅力を感じた。そこには多くの若者が集まっておりカフェでお茶をしたり読書、ショッピングなどを楽しんでいる人がたくさんいた。憩いの場になっているのだ。このように若者とデザインが近いところにあるということも、最新の情報を見て触れられるということも未来を引っ張って行くものにはとてもいい影響だ。現在の仙台にそんなところはあるだろうか。街の真ん中に若者が活動できる場所。将来を担う彼らが活動できる場所をもっと増やすことによってよりまちが活性化 すると思う。こういう点は台湾の方が進んでいるなと感じた。こうして比較することで自分の身の回りのことも客観的に見れるように感じる。意識の変化はとても大きかった。

今回は短期での留学だった。台湾で私の中の意識は変わったしレベルアップしたように感じる。しかしそれと同時にもっと自分は飛躍できたのではないかという後悔もある。短期留学ということで台湾の言語を全く身につけておらず、会話が簡素なものになってしまった。友達を作ることはできるがそれ以上の議論や文化、学習には足りなかった。聞きたいことや読んでいけばわかることも読めないためわからず、言い出せず帰ってきてそれがとても後悔である。勿論その気持ちをバネにして言語を積極的に学んでいこうと思っている。今回言語も知らないのに世界に飛び込んでいった行動力には感謝したい。行かないと言語は大切ということも実感しなかっただろうし、自分自身の中の台湾も隔ったイメージで終わっていただろう。この一步を踏み出せたことを大事にしたい。何事もやってみないと分からないという事を学んだ。自分の世界を広げるためにも大切な事だと思う。これから学校生活でも気になったことには挑戦して行きたいと思っているし、もっと他の国にも行って見たいと思う。今回は短期での滞在であったがこれが長期滞在でもまた視点が変わってくると思うので、仕事、留学どんな形でもいいからやってみて見たいと思っている。今回学んだ事を私生活でも活かしていきたい。